

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892200524		
法人名	社会福祉法人 三桂会		
事業所名	グループホームまんてん加古川		
所在地	兵庫県加古川市西神吉町大国116-1		
自己評価作成日	平成30年7月26日	評価結果市町村受理日	平成30年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2		
訪問調査日	平成30年8月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、地域密着型特養、小規模多機能型居宅介護が併設しているため、地域の方々の様々な相談ごとに対して、複数の専門職で連携し、速やかな対応が可能となっております。また、看護師も施設全体では6名が従事しており、通常の医療連携とは違い毎日看護師による健康管理がなされており、必要に応じて介護職員への確かな指導、助言がなされています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームに加え、小規模特別養護老人ホーム・小規模多機能型居宅介護が併設され、3つのサービスの連携によって施設全体が地域の多様なニーズに対応している。地域での知名度は高く、地元出身・地域在住の職員が多く、秋祭りにはお神輿の休憩地点になるなど地域に密着している。ホーム内は整理整頓され、全体的に木調で落ち着く空間だが、職員はあふれる笑顔、きびきびした動き、しっかりとした優しさのある声かけで自立支援しており、生活感がある。入居者の部屋からの眺めは良く、地元の人に馴染みの高御位山(たかみくら)の全景も眺望できる。入居時には看取りの指針についても説明し、本人・家族の理解を得るよう努めている。開設後これまでの1年半で3件の看取りを行なった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホーム まんてん加古川

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の月イチ面談時に、理念が浸透していない職員と唱和し、理念を地域交流スペースに掲示し、共有している。また、実際のケアに困った時は法人の理念を念頭に置きケアの実践がなされるように働きかけている	法人の理念を玄関と職員休憩室に掲示している。入居者への対応・ケアなどで職員に課題が生じた際には法人理念に立ち戻って考えるよう指導しているため、職員の理解も得られやすい。理念に共感して入職を志した職員も多い。	法人理念を大切に、職員教育にも取り入れています。理念を実現するグループホーム独自の具体的な目標を職員間で話し合って設けることを検討されてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	西神吉大国の自治会に入り、地域の秋祭りの時はまんてんが休憩拠点をなれるようにしている。また、自治会長を務めた方や、近隣同士の顔見知りの方々も多く、家族様来訪時は、日常的に交流が広がっている	自治会元役員や町内に住む職員の親族が入居したこと等で、住民の認知度も高まり、訪問者が他の入居者を見舞ったり訪問者同士が交流したりしている。地元の秋祭りにはお神輿の休憩に施設内3ヶ所を開放し、提供した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだそこまで至っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かした取り組みはないが独自で満足調査を実施し、その状況ご意見を、実際のサービスへ改善へ活用している。	運営推進会議は併設の小規模特養・小規模多機能型居宅介護と合同で行っている。市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・町内会役員・併設施設入所者家族などが参加している。グループホーム知見者の参加は近く実現していく見込みである。	運営推進会議にはグループホーム入居者家族がまだ出席されていません。今後は入居者家族が出席して意見を出せるような運営を図ることと、会議録はグループホーム独自で作られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営懇談会には必ず声をかけさせていただき、参加をお願いしている。時間の許す限り参加をしてくださり、ケアサービス、職員関係等の実情を伝えたり、行政からのお知らせなど双方の協力関係を維持しています	加古川市職員が運営推進会議に出席し、介護保険制度の改正点などの情報を提供している。運営上のこと等で何かあれば市役所の担当課に行き相談するなど、市とは良い連携関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時と年1回研修を行い、理解を深めている。月に1回安全対策委員会にて身体拘束評価を行い解除に向けて取り組んでいる。防犯上玄関・GH入口は電子錠で施錠している。	センサーマットや3点柵も身体拘束であり、緊急やむを得ない場合でも併設施設と合同の委員会で慎重に協議し家族に説明して同意を得る。事業所の玄関とユニット入口の施錠については、入居時に安全上の必要性を家族に説明し理解を得ている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時と年1回研修を行い、理解を深めている。不適切なケアについてはお互いに注意し合える関係づくりに努めている。	身体拘束と併せて年1回職員研修を行い、職員面談時にも虐待につながる行為を見かけていないか情報を集めるなど、虐待防止に向けた工夫をしている。入居者の痣や皮下出血などを見つけた場合は必ず家族に報告・説明をしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人さんが就いている方も数名いらっしゃり、管理者及び、主任計画作成担当者は、その方の後見人さんとより良い関係を築いている、些細な事でも報告を行い、受診が必要な時などは協力を得ている	成年後見人が付いた入居者が3人いる。後見人は司法書士等の専門家で24時間連絡可能であるなど良好な協力関係にある。先行して開設した併設施設と合同で、管理者を中心に成年後見制度等の研修と体制づくりが出来ている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、おおよそ2時間の時間を使い、懇切丁寧に説明を行っています。まずは重要事項説明書から説明をし、その後入居契約へつなげることで、より分かりやすく、理解が深まる様な工夫を行っています	契約の締結時には「2時間ほど頂きます」と断った上で契約書・重要事項説明書・運営規定等を1字1句読み上げて説明している。退去条件についても詳しく説明しており、これまで退去・解約の際のトラブルはない。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からのアンケートを実施し、アンケート結果を誰もが閲覧できるようにしている。また貴重なご意見を速やかに周知し改善に向けた取り組みを行っている	家族アンケートを独自に実施しており回収率は82%だった。ドアをノックせず開けたことの苦情やレクリエーションの要望など多様な意見・要望が把握出来て、改善措置を講じた。報告書を各フロアと事務所で公開し、運営推進会議に報告した議事録を全家族に送った。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月イチ面談にて、職員からのポジティブな意見は速やかに現場主任、リーダーと共有をし、改善を行っている	月1回の職員全体会議と管理者面談、並びに安全・衛生・感染等の各委員会活動を通じて職員の意見・要望や提案を吸い上げ、リーダー会議や管理者・理事長面談などで共有した上で改善や対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	評価制度を導入している。1等級から6等級までを設定し、役割を明文化することで、誰でもが見てもわかるような仕組みを作り上げた。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員へは、教育担当をつけ、マンツーマン指導を行い、その評価をリーダーと主任でフォローするようにしている。研修については毎月必ず一回は内部研修があり、全員が参加できるような日程組がなされている		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三桂会の事業所は神戸市垂水区と加古川市と少し離れた場所にあるため、今年より年一度各施設にてBBQ大会を開催し、交流を深める取り組みが始まる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に聞き取りを行い、対応可能な範囲で対応できるよう現場とも相談しながら行っている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に聞き取りを行い、対応可能な範囲で対応できるよう現場とも相談しながら行っている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入する段階で、まずどのサービスが必要かを、相談者へ説明し必要に応じて、各管理者間で情報を共有し連携を図っている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみなどは入居者様と一緒にいたり 喫茶時は職員も一緒にお茶を飲みながら過ごす時間を作るよう努めている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人とゆっくりと過ごして頂けるような配慮を行っている。 また面会時には普段の様子などもお伝えするようにしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所様との交流の機会をご家族様の協力も得ながら行っている。 同施設内での馴染みの方との交流も連携しながら行っている。	地域に住んでいた入居者が多いこともあり、親類や以前の知人等がついでに訪問するなどの交流が多い。また入居以前に馴染みであった飲食店や美容院・整骨院などに出かけることをご希望の場合はご家族の協力も得て実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は関係性を把握した上で配置している。 その他は自由に座り入居者同士で過ごす時間を作れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からの相談があった場合は相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	細かい部分までの把握はまだ出来ていないが、その場その場で希望や意向を聞き対応している。	入居時は主に家族から希望、意向等を聞き取っている。入居者からは生活を始めてから、その様子を観て、その場その場で希望や意向を聞き、記録して全職員で情報を共有し、介護計画、生活に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様へ聞き取りは行ってはいるがそれだけで終わっていることもあり全てを把握出来てはいない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は一人一人ある程度把握出来ておりご自分のペースで過ごせるよう支援している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時には本人やご家族様の希望等を聞き作成している。また更新時にも本人や家族の希望も聞き取りし介護計画を作成している。	ユニットリーダーが中心になり、本人、家族の希望等を聞き介護計画を作成している。また日々の生活の様子や発見した課題は、ユニット会議前に用意する所定の様式に記載し、ユニット会議で話し合い、定期的な計画づくり、計画の見直しに反映している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい様子などの記録は全員が行えては いないが、必要なことは記録するよう指導して いる。話し合いの場では記録以外でも職員から の意見を聞き取り見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すべてのニーズには対応できてはいないが いま出来る範囲での対応は行うよう努力 している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの方に来ていただき 行事を企画したり、秋には地元の神輿を 入居者様にみていただいたりと楽しんで いただけるよう支援している		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	まずはこれまでの関係を大切に、受診に つながる通院等に関しては、看護師にも 入ってり意向を確認しながら、受診へつなげ ている	明石市の内科医に週一度の往診をしても らっている。定期外でも往診をもらい専門 医の受診が必要な場合は往診医からの紹介 がある。歯科は元からのかかりつけ医と週1 度の往診医の両ケースがある。家族の事情 によっては施設の車を受診に提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	朝の申し送りが看護師と共に行い 情報の共有を行っている。 その他の場合でも何かあればすぐに看護師へ 相談し、囑託医と連携をとりながら適切な 治療や受診が受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。		入退院時は必ずお見舞いも兼ね病院へ行 き、看護師、ソーシャルワーカーから病状、治 療、退院後の受診について聞き、退院に向け た十分な話し合いをしている。それにより退 院後の受け入れをスムーズに行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 のできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	契約時には、看取りに対する指針を説明し、 緊急時対応の意識確認をしている。その意 向についても随時変更が出来る旨も説明を している。	入居時に、緊急時対応の説明と話し合いを 行って、所定の用紙に同意の署名をもらって いる。看取りは事業所の指針により出来るこ との範囲を説明し、家族の意向を確認して いる。看護師による急変時の勉強会を年2回行 い、実践力を身に付けている。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回急変時対応研修を行っている。 人形を使用しての心臓マッサージの実践は毎回行い実践力を身に付けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防火管理者の昼夜問わず研修を実施し、全職員が方法を身につける機会を設けている。また、夜間待機者が施設で2名以上いるので、連携が出来る体制を確保している。	防火管理者が計画する防災訓練(避難、誘導、消火)を、併施設と共同で昼夜を想定し年2回実施している。また夜間は3施設の夜勤者、管理宿直者が協力体制をとっている。災害訓練は建物前道路の冠水が以前あったので対策を講じている。	消防設備やスプリンクラー等が誤発報・誤作動した時の止め方など、いろいろな想定をして教えてもらってはいかがでしょうか。災害時の職員の召集方法もマニュアル化することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な声かけや対応ができるよう心掛けている。また不適切な対応があれば職員同士で注意し合える関係性づくりに努めている。	丁寧な言葉遣いや羞恥心に配慮した声かけが出来るよう職員間で注意し合える関係作りをしている。また職員のストレスが暴言につながらない様面談を行い、夜勤帯のミスなどで翌日落ち込んでいたりすると積極的な声掛けを行い、信頼関係の維持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	計画作成担当や担当が中心となり日々の会話の中で思いや希望を聞き取り職員と共有するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間はある程度決められた時間の中では行っているが、その他は自分のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替えは本人と一緒に選んだりその他でも好きな服を選んできていただいている。また化粧をする習慣がある方には起床時に化粧をしてもらうなど支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行っているが、食器洗いやテーブル拭きなどの片付けは入居者様にも手伝ってもらうよう声かけを行っている。	食事前にはメニューの話題やお好みを、食事中は味の感想、盛り付けの感想を聞き、食後はテーブル拭き、洗い物の依頼の声掛けをしている。お誕生日のおやつ作りや数ヶ月置きに献立から調理を一緒にする食事レクリエーションを行い楽しんでいる。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量を記録し1日トータルの食事を把握している。水分量は必要な方のみ測定しているが、食事時以外でも水分量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面台へ誘導し口腔ケアを行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には定時(食事前)に排泄介助を行っているが、排泄量や排泄パターンを個々に把握し、個別に対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、事前の誘導、促し、定時の誘導も行い、概ねトイレでの排泄が出来ている。おむつ利用の1名以外は、全員リハビリパンツを利用している。トイレが汚れた時は、その場で清掃し、次の利用者の不快感を無くしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と連携を図り嘱託医へも相談し個々に応じた下剤の調整等を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は固定しているが、入りたいタイミングでの誘導や体調不良や拒否があった場合は次の日や時間帯を調整し入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも体調が優れない時は居室で休んでもらうよう声をかけたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に応じた服薬支援を行っている。また新しく処方された時NSからは症状や変化の観察点等も申し送りがあり、個々の薬情も各スタッフが確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きなことやこれまでの生活歴、週間・趣味・得意なことを日常生活の中で出来るよう支援している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っての戸外へのお出かけには出来ないが、時間を見つけて施設内の散歩など行っている。施設外への外出はご家族様の協力を得て支援している。	気温が異常に暑く、戸外へ出るまで出来ていないが、時間を見つけて施設内の廊下等散歩をしている。敷地内には木製のベンチも設置されており、気温が落ち着けば日常的に戸外へ出る準備をしている。遠方には家族の協力を得て、車での外出をお願いしている。	立地条件や猛暑のせいで徒歩での外出は難しい状態にありますが、敷地内の散歩、外気浴など日課の中で日常的に戸外へ出る時間を作っていられるよう期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブル回避のため施設内での現金の持ち込みは極力控えていただいておりますが、これまでの習慣でご自身で管理される場合もあるので、必要に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話の持ち込みをされている方もいます。電話をしたい方がいましたが、施設の固定電話を使用していただく、手紙のやり取りの希望者は現在いませんが、その都度支援させていただきます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	真ん中にキッチンがあることで料理中の音やにおい・時間を感じてもらっている。また不快に感じないよう特にトイレは共有で使用するため使用後はきれいに保つよう心掛けている。季節を感じれるようなお花などを飾るようにしている。	玄関ホールには鉢植えや入居者が作成したケース入りの日本人形が置かれ、ユニットの壁には全員で作成した張り絵、習字の作品が掲示されている。ユニットごとに居場所作りのためにソファが数か所、向き・場所を変え置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファを数か所に置き、好きなスペースで過ごしてもらえるよう工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具はすべて持ち込んでもらい置く場所も本人や家族と相談して設置している。	馴染みのある家具、ベッドが持ち込まれ、壁には思い出の写真が飾ってあり、入居者が作成した作品も置いてある。室内は臭いもなく、リネン交換も出来て、清潔感がある。清掃は専門員が居るが、簡単な床掃除は夜勤帯に職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	集団レク以外でも個別でのレクや移動中にも運動ができるよう工夫をしている。トイレもわかるように張り紙をしている。各居室においても自分のお部屋がわかる工夫をしている。		